

平成30年度 事業報告書

設置者	学校法人志田学園				
幼稚園名	認定こども園鈴川幼稚園				
理事長	志田 直正	園長	志田 直正		
所在地	静岡県富士市鈴川東町 16 番 17 号				
定員数 (利用定員)	90名 (75名)	認可クラス	年少	年中	年長
			1	1	1
		学年定員数	30名 (25名)	30名 (25名)	30名 (25名)

学級名	3歳児(満3歳児)			4歳児			5歳児			合計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	
ばら	10	9	19							19
もも				12	2	14				14
せんだん (ゆり)							14	13	27	27
	3	4	7							7
合計	13	13	26	12	2	14	14	13	27	67
	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	園児数合計

(平成31年3月)

卒園児数(平成30年度)	
男	14
女	13
合計	27

教員数		職員数	
園長	1	事務員	
(副園長)	1	事務員	1
保育教諭	6	用務員	
助教諭		調理員	2
養護教諭		運転手	1
講師		警備員	
その他		その他 (年少組補助)	
合計	8	合計	4

建物面積	567 m ²
土地面積	1,977 m ²

事業方針	事業の推進	<p>平成27年度、建学の精神に基づく教育方針を根幹として、今年度の教育目標の達成に向けて、教育部門の適切な遂行を図るとともに、管理部門との連携を密に保ちつつ、園の運営を推進した。</p> <p>なお、前年度と同様に緊急災害時への適切な対応等、安全面に主眼を置いて、施設環境の点検と整備に努め、避難訓練等、安全教育の徹底を図った。</p> <p>また、本園は、平成27年度から認定こども園（幼稚園型）に認定されたことから、子ども子育て支援新制度に則り、幼稚園教育・保育の整合性を図りつつ適正な事業の推進を図った。</p>	
	予算編成の基軸	<p>今年度の本園の教育研究上の目的を根幹として、関連事業計画の遂行・達成を図るために、適切な財務状況を維持し運営することを予算編成の基軸とし、特に、本園の教育・研究目的の達成のために必要な経費の確保と、収入・支出のバランスを考慮した予算編成を行なった。</p>	
	具体項目	内 容	
1	教育内容	<p>各学年の『ねらい』を全職員が共通理解し、3カ年の保育課程を見通し、園児一人ひとりの成長に即した指導・援助を行うことによって、教育目標の達成をめざした。</p>	<p>各学年の「ねらい」を全教職員が常に明確に把握し、子どもたち・保護者への援助と指導を行った。</p> <p>園児一人ひとりの成長・発達の実態を職員全体が共通認識として把握することに努め、園児毎に適応した教育・援助をすることに努めた。</p>
2	研究内容	<p>園内で子どもたちと共に収穫する作物を食材とし、「食育」の観点から子どもの成長・発達を考察する。</p>	<p>平成26年度から「自然体験と食育」をテーマに研究、以後継続して「食」を巡っての園児による食材の植栽と収穫等自然体験を実践し、園児自らによる給食の体験学習を実施した。</p> <p>また、園児の家庭における「食」の実態を把握すると共に園と家庭の連携を図った。</p> <p>これらの取り組みの過程を総合して、園児の「食育」として纏めた。</p>
3	地域連携	<p>① 地域の教育力の活用 ② 地域づくりの参加と貢献 ③ 園の地域への開放 （別紙年間行事参照） ④ 地域との連携</p>	<p>○地元中学生との交流・・・夏まつり（7月28日） 造形まつり（2月9日）</p> <p>○デイケアセンター「はまかぜ」交流会（12月15日）</p> <p>○元吉原地区文化祭への参加</p> <p>○未就園児の会（年間20回）</p> <p>○PTAバザー（10月27日）</p>

			<p>○企業とのコラボでミカン狩り（12月11日）</p> <p>○災害避難訓練(毎月)</p> <p>○学校防災教育連絡会議（7月）</p>
4	施設 設備	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の確保 ・適切な教育環境の整備 ・施設の整備・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎・園庭の諸施設及び遊具の安全性を確保するため定期点検を実施、危険個所の修復や安心安全の確保に努めた。 ・本園は、園庭全域が砂地であり、その周囲は、昆虫や草花が豊富という自然環境を生かし、園児の心身の発達に役立たせた。 ・年間を通して、園庭の美化に努めるとともに、園庭の一角にある畑を利用し、園児とともに作物の育て収穫し、ジャガイモなどの料理を体験させた。 ・児童用トイレや用具の塗装、ブロック塀の改修に努めた。
5	管理 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・管理・運営体制の整備 ・管理と教育の適切な運営 ・自己点検・評価活動への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の目的達成に向けて、管理運営が園の教育の効果に適切に反映できるよう、常に園と設置者との職員会議・連絡会議をとおして綿密な連携を図り、その推進に努めた。 ・自己点検・学校関係者を実施して、結果をホームページで公表し、点検と評価の結果を慎重に検討して、教育環境の改善と教育内容の充実に努めた。
6	財務	<ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤の安定化 ・適切な会計処理 ・財務情報の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども子育て新制度のこども園に認定され運営費が施設型給付により安定的な受給体制になったことから経営全体が落ち着いて来た。従って、これまで以上に施設・教育環境の整備と充実に努めるため、経費節減に努めながらも教材などに予算化しやすくなった。 ・今年度の厳しい財務状況のもとで、当初の教育目標の達成に努力した。 ・毎年、ホームページに本園の園だよりを中心に学校評価、事業報告及び財務状況を公開し、広く広聴の機会を設けた。